

フランス語の 文化を 楽しもう!



現代のフランス映画は 何を継承しているか?

講演者

ステファン・デュ・メニルド

Stéphane du Mesnildot

(『カイエ・デュ・シネマ』元記者、

大学非常勤講師)

現代のフランス映画は何を継承しているか?

フランス映画は、1930年代の「詩的リアリズム」(カルネ、グレミヨン)、60年代の「ヌーヴェル・ヴァーグ」、大衆的な映画監督の登場(ルネ・クレマン、クロード・ソーテ、ジョルジュ・ロートネル)、そして70年から80年代の「作家の映画」(モーリス・ピアラ、クレール・ドゥニ)というように、いくつかの傾向によって特徴付けられてきた。それでは、これら主要な時代からの継承あるいは断絶を、現代映画の中に見出すことができるだろうか。またフランスの新しい映画監督たちは、どのような新たな領域を開拓しているのだろうか。以上の点を問うために、私たちはヤン・ゴンザレス(『ナイフ・プラス・ハート』)やジュステイヌ・トリエ(『愛欲のセラピー』)、ベルトラン・マンディコ(『ワイルド・ボーイズ』)、ジャック・オディアール(『預言者』)、エマニエル・ムレ(『令嬢ジョンキエール-愛と復讐の果てに-』)、プリユノ・デュモン(『ジャネット、ジャンヌ・ダルクの幼年期』)、あるいはフランソワ・オゾン(『Été 85』)といった、1990年から2000年代に登場した映画監督を取り上げていく。

ステファン・デュ・メニルド

1969年生まれ。パリを生活および活動の拠点とする。「カイエ・デュ・シネマ」誌の元批評家、映画史および映画分析を教える。著書に「日本映画における幽霊」、「ヴァンパイア映画の歴史」、「調査「殺人の追憶」」がある。2018年にはパリのケ・ブランリ美術館にて、「アジアの地獄と幽霊」展の共同監修を行った。

広島大学

文学部フランス文学語学教室

日本フランス語フランス文学会

中国・四国支部

言語 フランス語(日本語通訳付き)

日時 2020年11月30日(月)18時

参加費 無料

会場 Zoom開催



次のURLよりご登録ください <https://forms.gle/3TRY6CxyvRccEnbk9>

